

令和3年度
探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業

研究・実践の中間報告

令和4年2月18日(金)

北広島町立芸北中学校区研究推進地域

【報告の流れ】

I 研究について

II 今年度の取組

III 成果と今後に向けて

I 研究について

1 主題設定の理由(昨年度までの実践の課題)



① 単元のゴール設定が教師主導

→ 児童・生徒の課題意識や必要感を引き出しきれていない

② H29作成「身に付けさせたい資質・能力の系統表」

→ 現在の児童・生徒実態に合っているのか！？

③ 指導者の主観に頼る評価

→ 客観的に評価することができる指標が必要

I 研究について

2 研究主題

児童・生徒自らが探究する生活科・総合的な学習の時間の創造

～身に付けさせたい資質・能力の系統表の作成と

ルーブリックによる評価を通して～

3 研究内容

- ① 児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力の再検討
(系統表の作成)
- ② 評価の在り方の研究(ルーブリックの作成)
- ③ 児童・生徒が自ら探究したくなるような生活科・
総合的な学習の時間の単元開発・授業改善



Ⅱ 今年度の取組

① 児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力の再検討

● 資質・能力の整理

芸北小・中学校が児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力	学習指導要領が示す育成すべき資質・能力の3つの柱
自己回復力 協働する力 課題解決力 安全・安心をつくる力	知識及び技能
多面的・多角的な見方・考え方	思考力・判断力・表現力等
意志力	学びに向かう力・人間性等

● 系統表と全体計画の修正

Ⅱ 今年度の取組

② 評価の在り方の研究(ルーブリックの作成)

小・中合同研修(西部教育事務所芸北支所教育コンサルティング)

1	2	3
<p>① 係りの人に言われたことができた。</p> <p>② みんなが褒めてくれたのでしっかりと木を切ることができました。</p>	<p>① 手伝ってと言われる前に自分からお手伝いに行った。</p> <p>⑤ 周りを見て自分のやるべきことはないかと見れた。</p> <p>⑦ 今回は、しっかり大人に声をかけ、手伝ってもらうことができました。</p>	<p>④ 保護者の人に「手伝ってください」と言ったら「はい、喜んで」と逆にうれしがってくださいました。わたしもうれしくなりました。</p> <p>③ 作業が大変なとき、せどやさんは「やろうか？」と言って下さる。このように聞いて下さるから私たちは問いかけられるまで待つてしまう。</p> <p>⑥ 自分たちがやっているときに、係りの人が本を持ったりして私たちよりも先のことを考えて下さっていました。</p>
	<p>自分的 新しい視点x</p>	<p>自分↓周り↓自分</p> <p>次につながる 新しい視点o</p>
<p>受け身</p>	<p>⑧ 6年生さんが「できるよ」「すごい」とほめてくれた。次回は私がほめることをしようと思う。</p> <p>⑨ 3ターン目にせどやさんが強く切る勝負をしてきてくれた。自分たちがテンションを上げると、自然にせどやさんたちのテンションもあがる。</p>	<p>周り→自分</p>



振り返りを書かせることの大切さ
⇒書く力をつける

Ⅱ 今年度の取組

② 評価の在り方の研究(ルーブリックの作成)

芸北中学校

中3総合「芸北マルシェ」

ルーブリック(第2案)

「思考・判断・表現(多面的・多角的な見方・考え方)」を評価するルーブリック(R3年度 第3案)

北広島町立芸北中学校

	レベル1	レベル2	レベル3
能力記述文	<p>○活動を通し、内容(=活動したこと)の振り返りができている。(例:～ができた。できなかった。)</p> <p>○自らの意見を中心に考えようとしている。</p>	<p>○活動を通し、様々な視点で目指す理想の姿と現在の自分との比較をしたり、他者との比較をすることで、自己の成長や課題に気づくことができている。</p> <p>○他のメンバーとコミュニケーションをとりながらアイデアを出し、前向きに物事を捉え、進めようとしている。</p>	<p>○活動を通し、様々な視点で目指す理想の姿と現在の自分との比較をしたり、他者との比較をすることで、自己の成長や課題に気づき、視点を柔軟に転換することで、これからの生活に役立てようとしている。</p> <p>○他のメンバーとコミュニケーションをとりながらアイデアを出し、具体的な案を提案し行動しようとしている。</p>